

ふろく「古河講堂の用途の変遷」

本誌では、古河講堂が「林学教室」として新築された1909年から、教養部が「本館」として使用した1964年頃までを主に扱いました。

発行後、理学部化学第二学科が古河講堂を使用していたと情報をご提供いただきました。改めて、古河講堂の用途の変遷をご紹介します。

1909年11月	新築、農科大学林学科・林学実科が使用
1945年 6月	林学実科と農学実科を統合し、「附属農林専門部」を設置
1951年 4月	附属農林専門部の廃止
1954年頃	農学部林学科が移転
1955年 4月	教養部が使用を開始
1963年	教養部が事務室等を移転（教官室としての使用は継続）
1964年	理学部化学第二学科（1963年4月設置）が使用を開始
1966年 6月頃	理学部化学第二学科が移転
1969年	大学紛争のため、教養部が事務室を、法学部が「教官連絡本部」を一時的に設置
1976年 3月	教養部担当教官の移転が終了
1978年	大学院環境科学研究科が使用を開始
1980年 3月頃	大学院環境科学研究科が移転
1980年 4月頃	教養部が教官室として使用を開始
1995年 3月	教養部の廃止
1995年 4月	文学部が使用を開始
2019年 3月	文学部が使用を終了



古河講堂（1967年4月）

（寺沢浩一氏寄贈資料）